

2024年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書

Team HRSの2名がナショナルクラスでワン・ツーフィニッシュ!
夏のインターバルのトレーニング成果を遺憾なく発揮した。

9月14日(土) 公式予選 9:20~9:40◎天候・路面: Cloudy / Dry

#19 戸高 綸太郎 2'22.036 / 2番手

#11 遠藤 翔類 2'23.287 / 6番手

約4か月のインターバルを挟んで開催された鈴鹿サンデーロードレース第3戦。予選が行われた9月14日(土)は、朝に弱い雨が降り、路面はウェットとなったものの、その後天候は急激に回復し、Team HRSの2名のライダーが参戦するJ-GP3クラスの予選は完全なドライコンディションとなり、全車スリックタイヤでコースインしていった。

20分間の予選セッションの序盤、遠藤翔類が積極的に前を走り、その真後ろに戸高綸太郎が付けた。しかし、遠藤は集団の中で思うようにペースが上げられず、タイムがなかなか伸びてこなかったが、その後方の戸高は遠藤の前に出ると、さらにペースを上げていき、6周目に自己ベストタイムを大幅に更新する2分22秒036という好タイムを記録し、総合2番手グリッドを獲得した。

遠藤はその後も思ったようにタイムを詰めることができず、7周目に出した2分23秒287がベストタイムとなった。順位は6位だが、2列目からのスタートで、決勝でのジャンプアップも十分狙える位置につけた。



9月15日(日) 決勝レース(フルコース10周) 天候・路面: Cloudy / Dry

#11 遠藤翔類 総合2位 / ナショナル1位 / NSFチャレンジ1位

#19 戸高綸太郎 総合4位 / ナショナル2位 / NSFチャレンジ2位

サーキットは朝から厚い雲に覆われ、天候の急変が心配される中での決勝となった。フロントローからスタートした戸高は2番手で1コーナーに突入すると、オープニングラップをトップで通過する。遠藤もスタートでポジションを上げ、5番手につけた。戸高、遠藤らのトップグループは6台のパックとなり、各コーナーでポジションを激しく入れ替える。

3周目、遠藤は2分22秒台中盤のタイムで猛然と追い上げ、バックストレートエンドでトップに浮上した。後方では戸高が4番手の位置でトップをうかがうが、直前を走る選手が日立ASTEMOシケインでクラッシュし、そのマシンと接触。幸い転倒は免れ、ライダー、マシンにもダメージは無かったが、ポジションは7番手にまで下がってしまった。

遠藤は昨年までHRS Moto アドバンスコースに所属していた竹本倫太郎とトップ争いを展開。レースが半分を消化した頃、西コースでは雨が降り始めてレッドクロスが提示される。竹本、遠藤の2台はそんな難しいコンディションの中でも後続を引き離しながらバトルを続けるが、レース終盤、遠藤は竹本のペースについていけず、2位でのチェッカーとなった。クラッシュによりトップグループに後れをとった戸高は、その後も力走を続け、5台のパックでのバトルを制して総合4位でゴール。ナショナルクラスでは1位の遠藤に続き、2位という結果となった。



2024 鈴鹿サンデーロードレース

Round 3



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝: 遠藤翔類, 2位: 戸高綸太郎, 3位: 長谷川蒼馬)

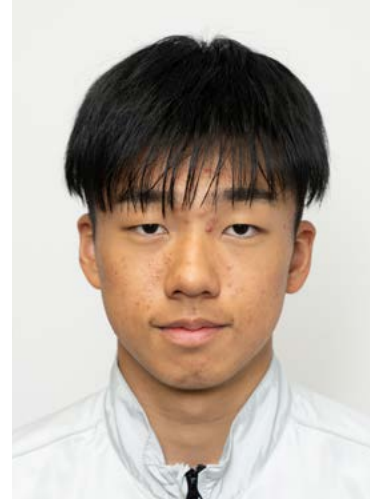


2024年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選6位 決勝総合2位 (ナショナル1位 / NSF
チャレンジ1位)**
遠藤翔類 (えんどう かける) 15歳

『特別スポーツ走行と予選では、気持ちが入りすぎたためか、理想の走り方と実際の走り方がかみ合わず、タイムをまとめ上げられませんでした。一旦一歩下がって、冷静になるべきでした。決勝はまずまずのスタートが切れて、1コーナーでほかのライダーに前に出られることもありませんでした。その後はトップにも立てましたが、前に出ても後続を引き離せず、前に出たり後退したりの繰り返しで、レース終盤では焦りからか、ミスが重なって一気に離されてしまいました。前に出られるポイントは十分ありましたし、そこで積極的に前に出れば、総合優勝の可能性はあったと思います。全体的なペースは決して悪くはありませんでしたが、結果は結果なのでしっかりと受け止めます。今季はまだ総合優勝ができていないので、サンデーロードレースの最終戦では、まずは総合優勝をしっかりと狙います。それまでにはまだまだ走る機会もありますので、例えばMCシケインのような、苦手とするポイントをしっかりと克服してレースに挑みたいです。さらに、その前にある全日本ロードレースにも参戦が決まったので、そこでの経験もしっかりと身に付けてサンデーの最終戦に臨みたいと思います』



**ナショナルJ-GP3クラス: 予選2位 決勝総合4位 (ナショナル2位 / NSF
チャレンジ2位)**
戸高 綸太郎 (とだかりんたろう) 14歳

『予選ではベストタイムを大幅に更新することができましたが、ポールポジションをとれなかったのは悔しかったです。22秒0が出て、ちょっと気が緩んだのかもしれませんが、もっとペースを上げなければいけません。これまでのベストタイムから1.3秒縮められましたが、教えてもらったブレーキングやフットワークがうまくできたのがタイムにつながったと思います。決勝では最初トップに立つことができましたが、クラッシュに巻き込まれてポジションを落としました。もっと前の位置に出ればクラッシュに巻き込まれるようなことはなかったと反省しています。この接触でクラッチレバーが曲がり、それ以降はペースを上げるのが大変でしたが、4番手にまで上がってラストラップを迎えられたのが結果的にはよかったと思います。今回は特に第4セクターが遅かったので、もっと速く立ち上がるために、早めに向きを変えられるようにしなければならないと思います』



2024年鈴鹿サンデーロードレース第3戦 参戦報告書



野田弘樹 Instructor

『今回のレースは彼らにとって、今後のチャンスをつかむための大事なレースでした。第2戦終了後、彼らが特に苦手としているポイントを、ログアーのデータをもとに指導を進めました。またHRSの先輩である古里太陽君をはじめ、これまでの先輩らが残したレースタイムやデータと彼らのデータを見比べ、不得意なところをしっかりと認識してもらいましたが、今回のレースではかなりの改善がみられましたね。今年の夏はとにかく暑く、ハードな状況の中での練習となりましたが、そのおかげで技術的な部分もかなり向上したのではないかと思います。今回のレースでは、戸高が他車の転倒に巻き込まれて遅れてしまいましたが、ペースの上げ方やパッシングなどで、2人とも気持ちが前に出ているということが感じられました。彼らは口では勝つとはいうものの、まだまだ遠慮しているようにも見えましたが、今回のレースでは、勝利してチャンスをつかんだという気持ちが走りにも表れていました。褒めるべきポイントはほかにもたくさんありますが、目指しているところはもっと上ですので、今回の結果に決して満足してはいけません。これから全日本ロードレース最終戦MFJ-GPやサンデーロードレース最終戦NGKスパークプラグ杯、そしてアジアタレントカップのオーディションなど、彼らのレース人生に大きく影響するであろうレースが続くので、決して気を緩めずにしっかりと戦ってほしいと思います』

